

2006年3月27日

北見市長立候補予定者 様
北見市議会議員立候補予定者 様

ふるさと銀河線再生ネットワーク
代表 下斗米 ミチ

**北見市長・市議選にあたり、ふるさと銀河線
廃止にかかるアンケートご回答のお願い**

この度、北見市長・市議選に立候補を予定されているあなた様の、ご健闘を心からご祈念申し上げます。

さて、ふるさと銀河線は4月20日をもって廃止されようとしております。94年前、野付牛初代町長 前田駒次が奔走して建設した銀河線が貴議会の廃止決議がなされないまま、その歴史に幕を閉じることは、まことに残念至極でございます。

このうえは、今次、市長・市議選を通して、あらためて民意が問われるべきと考え、新しく市長・市議会議員になられるみな様にアンケートを送付させていただきますので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答は3月30日まで下記のところまで、ご送信くださいませ。また、アンケート結果につきましては、当組織の会員に知らせるほか、ホームページ、報道機関においても公表させていただくことを、あらかじめご了承くださいませよう合わせてお願い申し上げます。

ご回答送信先

TEL・FAX 0157-42-3769 ふるさと銀河線再生ネットワーク事務局
住 所 北見市留辺蘂町上町132

北見市長・市議立候補予定者に対するふるさと銀河線アンケート

- 問1 北海道ちほく高原鉄道は3億3400万円（平成16年度）の赤字により、4月20日で銀河線を廃止します。一方、秋田内陸縦貫鉄道も毎年約3億円の赤字を出しながら存続を決めました。この対照的な、ふたつの鉄道経営の姿勢を比較して、いま、あなたのお気持ちは、どちらに近いでしょうか。さらに、鉄道は、地域住民の足のみではなく、まちづくりの拠点、商業、観光、特に第一次産業をこれ以上衰退させないためには必要不可欠です。鉄道の廃止後の道内市町村でも、商店街、医療、文化、教育機関の衰退と人口減少はおびただしいものですが、こうした状況をふまえお答えください。
- A 道・沿線自治体とも財政負担が困難であるのだから、1年間でも引き延ばすべきではない。したがってこの段階では廃止はやむを得ない。
- B 自治体の財政困難はいつも同じだ。秋田内陸縦貫鉄道の姿勢を見習い、まず2~3年間でも財政負担をしてみて、その後に廃止の結論を出してもおそくはなかった。
- 問2 南海鉄道 貴志川線(和歌山県)は赤字のため昨年9月30日で廃止が決まりましたが、県・沿線自治体・住民の協力で、岡山電気軌道(以下「岡電」)が、鉄道施設の譲渡を受け復活しました。これはNHK「ご近所の底力」の番組でも紹介され、ご存知かと思えます。
- ふるさと銀河線再生ネットワークは昨年8月、岡電を訪問し、同社に運行してくれるよう要請しました。同社は「1従業員が3役を行なう」ことを社の方針としており、これにより、銀河線を引き受けた場合1億5000満円のコストダウンが可能と表明し、「4つの条件」はありましたが、同社運行の内諾を得ました。しかし、北見市・ちほく高原鉄道は、交渉に行った再生ネットの報告を聞こうともせず、岡電との交渉のテーブルにも着こうとしませんでした。これについて、いまあなたのお気持ちはどちらに近いでしょうか。
- A 岡電が1億5000万円コストダウンできるとしても、全体の赤字3億4500万円のうち1億8400万円は沿線自治体が負担しなければならず、この負担は困難であり、したがって交渉のテーブルに着く必要はなかった。
- B 岡電が1億5000万円コストダウンできるとしたことは画期的であった。赤字残1億8400万円のうち4500万円は道補助金が出るのであり、沿線7自治体の実質負担は1億3900万円、1自治体2000万円であったから、負担できない額ではなかった。交渉のテーブルに着かなかったことは禍根を残した。
- 問3 ふるさと銀河線再生ネットワーク（前身組織を含む）は、その赤字解消のために、内閣府の「地域再生構想」や「構造改革特区」制度を活用し、DMV(デュアル・モード・ビークル=線路・道路走行可能車両)の運行・減価式地域通貨発行・コミュニティファンドの実施など、具体的に対案を提案しましたが、これらはひとつも採用されませんでした。これらの対案に対し、いま、あなたのお気持ちはどちらに近いでしょうか。
- A 対案として試行してみる価値はなかった。
- B 対案として試行してみる価値はあった。

- 問 4 銀河線には 48 億円 7700 万円の第 1 基金があります。報道によりますと、そのうち 31 億円を消費して線路・鉄橋を撤去するとしています。一方、石川県能登線、道内でも士幌線では廃止後も鉄橋を残しています。線路・鉄橋の撤去について、あなたのお気持ちは、次のどちらに近いでしょうか。
- A 廃止にするのであるから、31 億円かけても撤去するのが筋である。
 - B 他の線でも残している例があり、財政難の折、無駄な支出はすべきではないから、これらを残す方向で検討すべきである。
- 問 5 陸別町商工会が中心になって、銀河線の線路・車両を活用し、鉄道を動態保存し、観光活性化につなげようとしています。北見市においてもこれらを活用し、観光活性化に結びつけたり、前田駒次（銀河線建設に奔走した初代野付牛町長）を記念する施設建設を検討すべきと思いますか。
- A それらの活用は観光に結びつかないし、前田駒次の記念施設もつくる必要はないと思う。
 - B 他の鉄道でもトロッコ列車など活用している例があり、また前田駒次の功績を後世に歴史としてを伝えるため何らかの記念施設をつくるべきである。
- 問 6 3 月 4 日の報道で、会社 が銀河線の車両 3 両をミャンマーに売却する方針であることを明らかにしました。ミャンマーへの車両売却について、あなたのお気持ちは次のどちらに近いでしょうか。
- A ミャンマーであっても国内であっても、車両の有効活用してくれるところがあるなら、売却契約をすすめるべきであり、銀河線運行中であっても新聞掲載は問題ない。
 - B 陸別町での車両活用は問題ないと思うが、銀河線存続を希望する沿線住民の心情を考えたなら、何も廃止前に、ミャンマー売却を報道させる必要はなかったのではないか。むしろ報道しないように要請する配慮があってもよかったのではないか。
- 問 7 銀河線廃止後、北見駅周辺商店街の売り上げは、どのように変化すると思いますか。
- A 売り上げが減るとは思わない。
 - B 売り上げが減ると思う。
- 問 8 銀河線が廃止になった場合、陸別・置戸などの中間 5 自治体の人口減少が顕著になると予測されていますが、それについてあなたはどのように思いますか。
- A それらの自治体の人口減少はやむを得ないことだ。
 - B この地方の中核都市として、北見市はそれらの自治体の人口減少を避ける政策をとるべきだった。
- 問 9 銀河線代替バス購入にあたり、北見市は国庫補助申請をしなかったため、第 1 基金から 2 億円を余分に支出することになり、結果的に北見市を含む沿線 7 自治体へ損失を与えることになりました。これについてあなたはどのように考えますか。
- A 国庫補助を受けないことは、やむを得なかった。
 - B 国庫補助を受けるべきであった。

問 10 新聞発表を総合しますと、銀河線は足寄（実際は小利別～北見間）・北見間の高速道路建設の取引として廃止が決められた、とされています。当再生ネットは、このような取引はなされるべきではないと考えますが、いまはそれを問わないことにします。高速道路建設と銀河線廃止の関連について、いまのあなたの考えは、次のどちらに近いでしょうか。

- A 高速道路建設と銀河線廃止とは切り離して考えるべきだ。したがって、銀河線の線路が撤去された後、道路特定財源の大幅削減により、万一この高速道路が建設されなかったとしても、やむを得ないことだ。
- B 与党有力者が、結び付けている以上、高速道路建設と銀河線廃止は切り離して考えるべきではない。今後、道路特定財源が大幅削減され、高速道路建設が中止になる可能性が予測されるので、その時まで担保として銀河線の線路を残すべきである。

問 11 銀河線廃止についてご意見ありましたら、200 字以内にお書きください。

ご意見欄